

# オーガニックコスメを題材にした環境教育プログラムの開発

215067 坂本 萌（指導教員：古瀬浩史）

## 1. はじめに

オーガニックは「有機」と訳され、無農薬・無化学肥料で農産物を栽培する方法を「有機栽培」という。

オーガニックな方法で栽培された食品が外食産業に導入されている他、2016 年現在では食べ物に限らずオーガニックコットンや、オーガニックペットフードなど幅広い分野に「オーガニック」が定着している。

オーガニックが普及した今、「オーガニックコスメ」は多くの女性誌や新聞にも取り上げるようになった。日本にはまだオーガニックコスメの認証団体や定義はないが、一般的に以下のように説明されている。

「ハーブなど天然素材を化粧品の材料にし、化学合成物質をできるだけ使わない、自然派の中でも環境に配慮し、有機農法で育てた植物を原料にして製造過程も含めて環境に配慮した化粧品のことを言う場合が多い。基礎化粧品だけでなく、海藻や鉱物を使ったヘアケア用品やメーキャップ用品もある。」（朝日新聞の記事より引用）

そこで、環境に配慮されたオーガニックコスメを環境教育のプログラムで扱うことができないかと考えた。本研究では「コスメ」という若い女性に関心をもたれやすいテーマで、環境問題を学ぶ新たな入口をつくることを目的としてプログラムを開発した。

## 2. 研究方法

「オーガニックコスメと環境」をテーマに、コスメ作りの体験を含む環境教育プログラムを考案し、帝京科学大学上野原キャンパス内で複数回試行した。試行ではアンケートやふりかえりのミーティングを行って改善のための材料を得た。完成したプログラムを都市型環境学習施設である台東区立環境ふれあい館ひまわりで一般対象に実施し、参加者アンケートや施設関係者へのインタビューを行いプログラムの評価を行った。

## 3. プログラム内容

### (1) プログラム構成

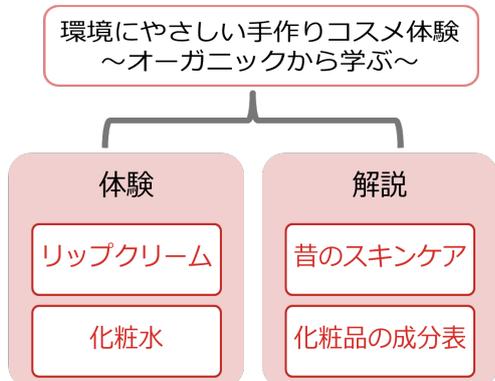


図 1. プログラム構成

プログラムは体験と解説を組み合わせる構成とした。リップクリームが固まるのを待つ時間に「昔のスキンケア」について解説を行

った。化学物質が生まれる前は、自然界にあるものでスキンケアをしており、環境に負荷のない生活をしていた。またシャンプーリンスの役割をしていたうどんとそばのゆで汁や、洗顔料に使われていた米ぬかなどの実物も用意した。

化粧水をろ過している間には「化粧品の成分表」の解説を行った。一般的な化粧水にはたくさんの化学的に合成された物質が含まれている。防腐剤や合成保存料がはいっているため、良い品質を長く保っていられるが、環境ホルモン作用が疑われる成分が含まれている可能性なども指摘されている。(小澤貴子, 2015) 一方オーガニックコスメは、使用期限が短く高価格であるが自然界に分解されやすい成分で、環境に配慮された製造方法であるというようなそれぞれの特徴について解説を行った。

### (2) 本プログラムのねらい

オーガニックコスメ、またオーガニックについての理解を深めることを通じて環境問題への意識向上を図る。

### (3) 配布物

プログラム参加者には、参加にあたっての注意点、材料、コスメの作り方、手作りコスメを始める前の注意点を記載した資料を配布し安全面を考慮した。

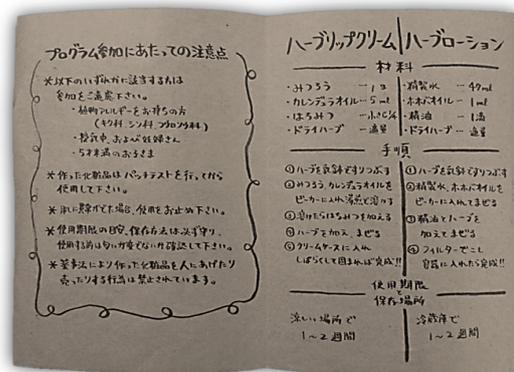


写真 1. 配布物 表

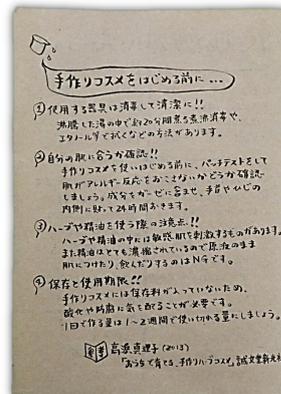


写真 2. 配布物 裏

(4) プログラムの流れ

〈導入〉 3 択クイズ! オーガニックとは(解説: 写真3)

〈本体〉 ①リップクリーム作り(体験)  
昔のスキンケア(解説: 写真4, 5)  
オーガニックコスメとは(解説: 写真6)  
②化粧水作り(体験)  
成分表の見比べ(解説: 写真7)

〈まとめ〉 オーガニックと環境の関係性(解説: 写真8, 9)

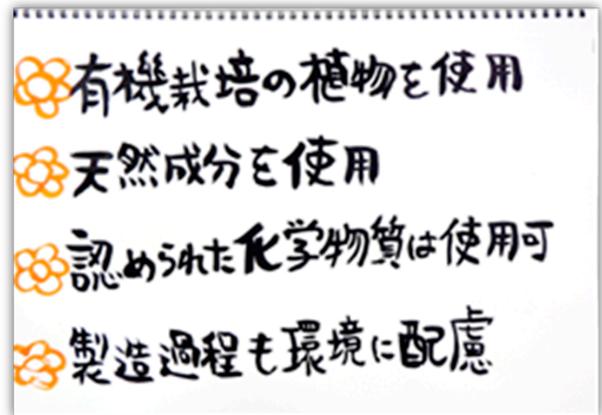


写真6. オーガニックコスメの一般的な定義

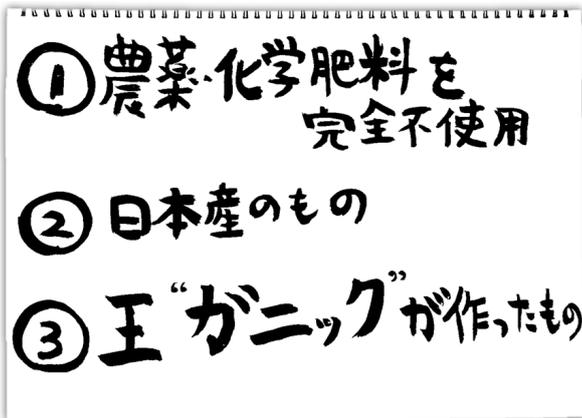


写真3. 笑い要素のある3 択クイズ

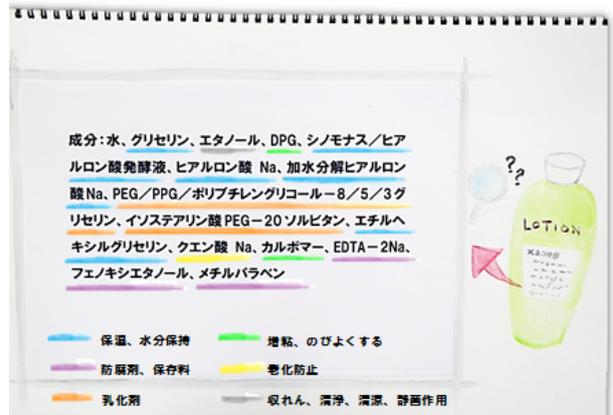


写真7. 化学物質の入った化粧水の成分表



写真4. 昔の化粧水



写真8. オーガニックはなぜ環境にいいのか



写真5. 左から米ぬか、うどんゆで汁、そばゆで汁



写真9. オーガニックは環境保全につながる

(5) まとめでの解説内容

まとめでは、写真 9 のイラストを使用し、オーガニックを特徴づける以下の説明を行った。

- ・農薬不使用：雨が降っても川に汚染物質が流れない
- ・化学肥料不使用：生ごみの堆肥を使い、ゴミをできるだけ減らすことができる
- ・遺伝子組み換え禁止：虫を殺さない、除草剤で水や空気が汚染されることはない
- ・地産地消：輸入に頼らず、国産のオーガニックのものの需要が高まると輸送コストが少なくなる

以上の大きく分けて 4 つの視点からオーガニック農法は体に安全という面だけではなく、環境と深い関係性があり保全につながる、といった解説を行った。

(6) 実施場所

表 1. 実施場所と実施内容

日時	場所	イベント形態	実施時間	成果品	参加者
8/2	オープンキャンパス上野原	ブース出展	15分	リップクリーム化粧水どちらか	7人
9/13	オープンキャンパス上野原	ブース出展	15分	同上	4人(男性1人含む)
10/10	科大祭上野原キャンパス	ブース出展	15分	同上	18人(男性2人含む)
12/19	台東区立環境ふれあい館ひまわり	事前予約制イベント	2時間	リップクリームと化粧水両方	15人

4. 結果

(1) 試行の結果

満足度、ねらいの達成をアンケートにて評価した。

(a) 満足度

「楽しかった」と解答したのが 5 人、「とても楽しかった」と回答した人が 23 人で、高い満足度が得られた。

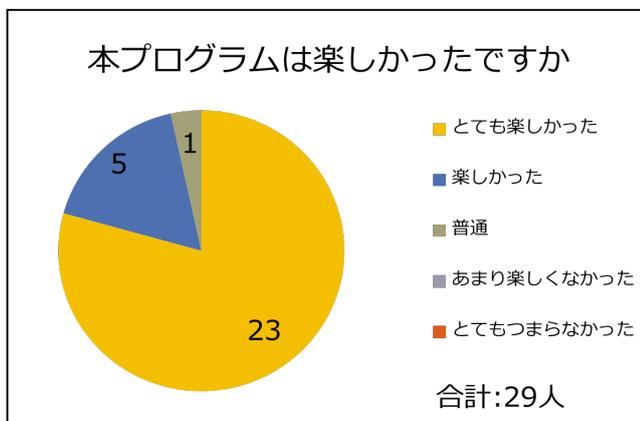


図 2. オープンキャンパス上野原(8/2、9/13) 科大祭(10/10) 来場者 満足度

(b) ねらいの達成

回数を重ねるたびにプログラムは改善したため、アンケート内容は毎回異なった。

「体験後、環境への意識に変化はありますか」という問いに、「上がった」と回答したのは 11 人で 1 番多く、次いで「とても上がった」、「少し上がった」という解答数は同じ 5 人であった。「変化なし」と回答した人はいなかった。

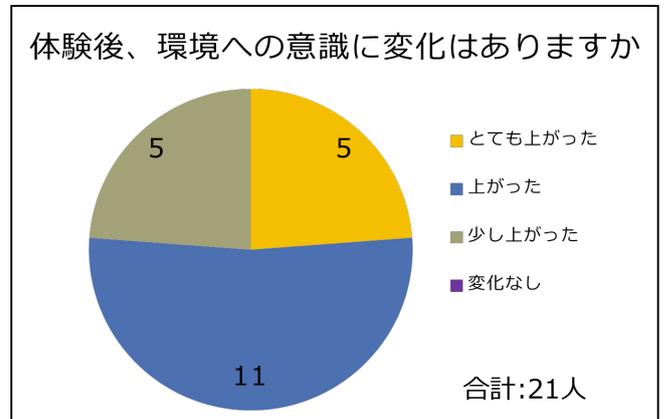


図 3. オープンキャンパス上野原(9/13)、科大祭(10/10)来場者 ねらいの達成

(c) 参加者感想

- ・ハーブがいい香りだった
- ・簡単に作れて楽しかった
- ・家でもつくってみたい
- ・ホホバオイルの説明がほしかった

(d) 試行結果を踏まえての改善

試行プログラムのアンケートでは、コスメ作りの体験についてのコメントが多く、環境問題まで広げた感想はみられなかった。そのため、オーガニックコスメに限って解説していた「まとめ」の内容を改変し、オーガニックという概念についてや、環境保全との関わりを含めた「まとめ」の解説を検討した。また使用する材料の植物を詳しく説明すると、15 分間におさまらないためハーブ図鑑を用意して参加者に自由に調べてもらえるようにした。

(2) 台東区立環境ふれあい館ひまわり(12月19日)来館者

参加者年齢層、満足度、ねらいの達成をアンケートにて評価した。また施設の職員の方から意見、感想をいただきプログラム全体を評価していただいた。

(a) 参加者年齢層

施設の職員の関係者の方で 20~30 代の参加者がいたが、一般のお客さんは 40~70 代であった。想定していた年齢層よりは年齢が上の参加者が多くみられた。その要因として考えられるものは、広報が館内でのポスター掲示だけであったこと、先着順の受付であったため、施設の年配の常連の利用者ですぐ定員が埋まってしまったことがあげられる。

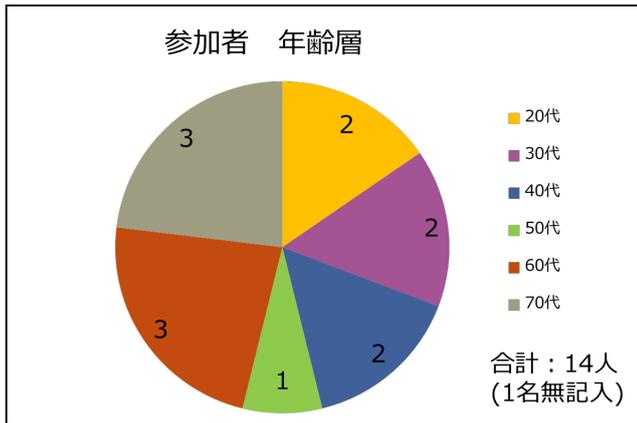


図4. 台東区立環境ふれあい館ひまわり(12月19日)来館者参加者年齢層

(b) 満足度

12人が「とても楽しかった」と回答した。「とてもつまらなかった」と回答した1人(70才代)は、アンケートの他の項目の回答や、アンケートの文字が小さかったことから、間違えて逆につけてしまった可能性がある。

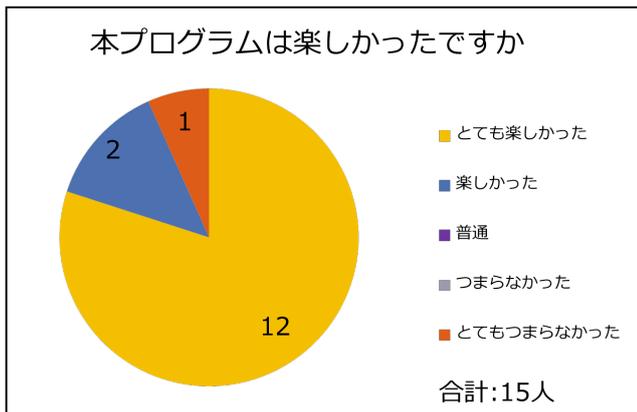


図5. 台東区環境ふれあい館ひまわり(12月19日)来館者満足度

(c) ねらいの達成

「体験後、環境への意識に変化はありますか」の問いでは、変化なしと回答した人はいなかった。

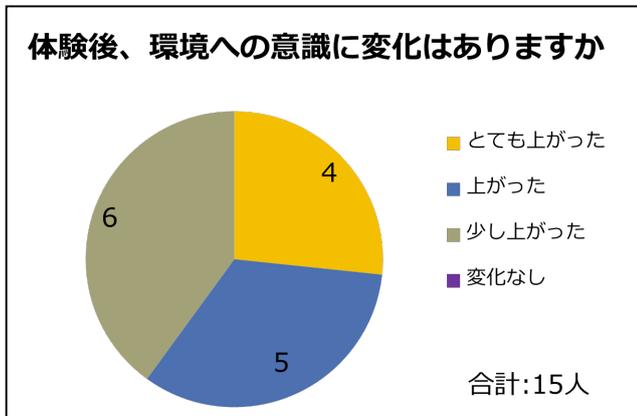


図6. 台東区環境ふれあい館ひまわり(12月19日)来館者ねらいの達成

(4) 参加者感想

- ・高価でも環境問題や自分の体に優しいものを選びたいと思った。
- ・作っている間に会話が弾み、より楽しく学べた。
- ・コスメ作りのワークショップに参加したことはあったが、ここまで環境について説明してもらえたのは初めてで、勉強になった。
- ・遺伝子組み換えなど知識としては知っていたけどコスメと結びつけて考えたことがなかったので目からウロコだった。

(5) 施設職員の方から得られたコメント

- ・無料で持ち帰れ、楽しく満足度が高い講座だったと思う。
  - ・館内でしかPRしていないが、早い段階で定員うまった。
  - ・真似して実施したいと思った。
  - ・あらゆる場面で実物を用意したことで、参加者同士での会話が弾んでいた。
  - ・大人対象のイベントにフィットしていた。
  - ・初めにアイスブレイク、終わりに記念撮影や完成品の香り比べなど、もう少し構成的だとよい。
- などのコメントをいただいた。

5. 考察

本プログラムを評価するにあたり、都市型環境学習施設においてどのようなプログラムが行われているのかをインターネット上の情報を元に調査した。調査対象は、生活全般から地球環境問題まで広げた展開がなされている都市型施設の中から活発に活動している5施設を選定し、過去1年分について調べた。広報されていたプログラムを手法で分類し、その割合を図7にまとめた。

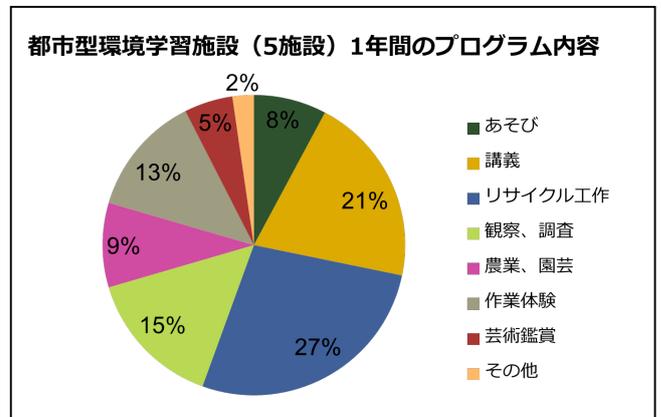


図7. 都市型環境学習施設プログラム手法分類

実施されている回数の多い上位3種は、1. リサイクル工作、2. 講義、3. 観察・調査であり、この3つで全体の半分以上をしめていた。今回開発したプログラムは作業体験に分類される。この調査した年度では、コスメを題材にしたプログラムや、若い女性をメインターゲットにしたと思われるプログラムは見当たらず、全体に多様性に欠けるように感じられた。環境教育では、必ずしも環境に興味を持っていない人も含めて、多くの人に教育の機会をつくる必要がある。そのため、手法やテーマが偏ること無く、時代や社会にあった多様な入口があるべきだと言えよう。

台東区立環境ふれあい館ひまわりは、平日は小学生の利用が多く、来館者はやや偏っている傾向が感じられる。今回開発した「コスメ」のように新しい題材のプログラムを今後増やしていけば、新たな参

加者の獲得が期待できると思われる。

今回は想定していた年齢層より上の参加者も多かったが、今までとは異なる年齢層をターゲットとしたプログラムとして意義のあるものになったと考える。

今後、広報の方法を変えたり、ニーズが有ると思われる 20~30 代の子どもがまだ小さいお母さん世代が参加しやすいように、平日に 1 時間未満で行う設定なども試す価値があると考えられる

## 6. 謝辞

本論文を作成するにあたり、実施場所を提供して下さった台東区立環境ふれあい館ひまわりの職員の皆様、ハーブを提供して頂いた桂川ウェルネスパークの職員の皆様、プログラムの実施協力や度重なるアドバイスを頂いた研究室の皆様、プログラムに参加して下さいました方々をはじめ、多くの方々に心より感謝申し上げます。

## 参考文献

- 1) 横田哲治:オーガニック食品のことがわかる本, 日本実業出版社, 2000, pp. 83
- 2) 小澤貴子:ウソをつく化粧品, フォレスト出版, 2015, pp. 53